

414
A 4694

天正十一年四月
限侯爵邸寄

○一久二三或七月さう。新京都河原橋へ西北へ麻凡
是以中ノ親を代方と出ましくしよりの如像麻信古史略(田)

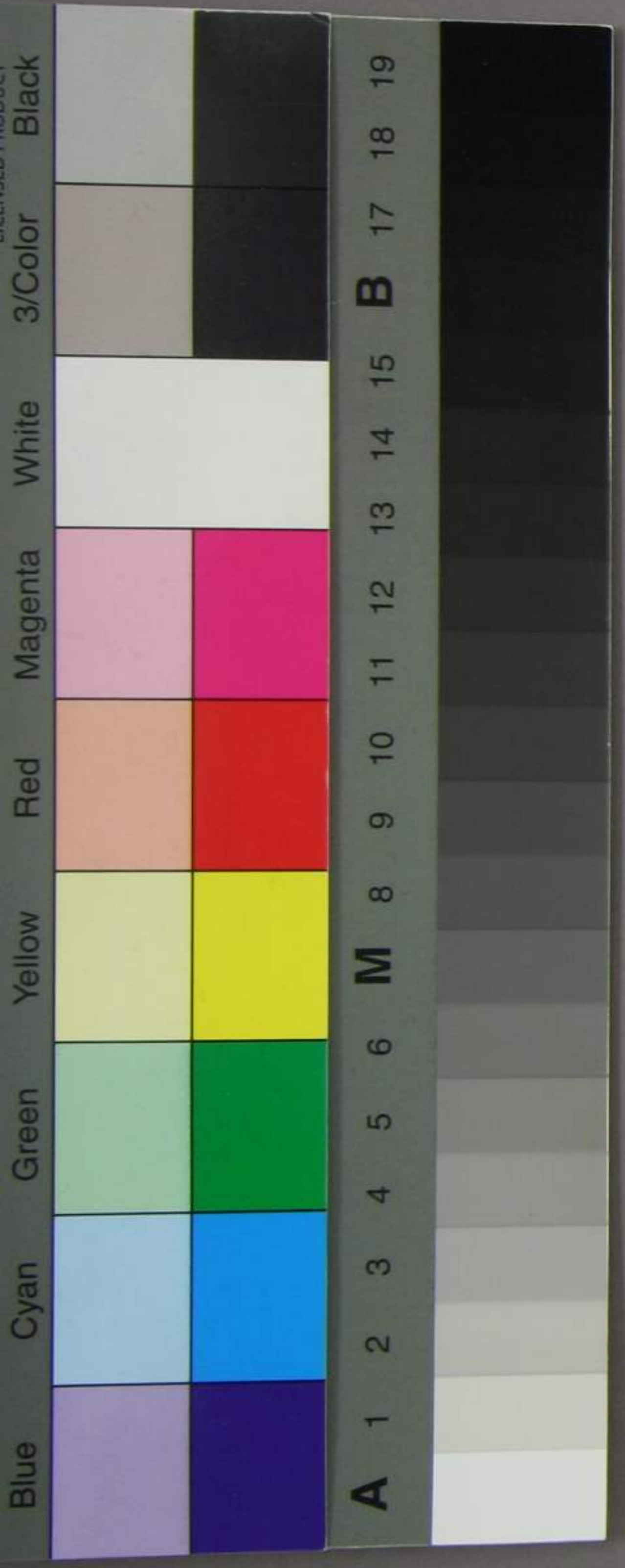


速報二字

此頃田左衛門守尉古村大進藏と長嶋と徳と波同派石澤妍曲
如歌云他も客好誠信之加得敷合鳥市壽吉也

此名ノ烟籠ハ一徹川ニ系上ル而モ甚ク公素則ラ被申
程穠多ク一申。信使ノ上立死骸ハ西古右右花弁と事

○三後同日初。乾辛所通錦天神社門なる成者ノ
主文厄ノ通



賢民亡	君賊輕	君賊忠	國臣衰
朝臣親	天命正	民有活	君威嚴
倭曾興	臣亡重	臣討道	夷備強

七月十日
 夫より由らるる富土とて傳へて臨國と
 河を東にかけしをいふは人をして後以て懐く事程眼ら
 法へてしとれとて活板をて傳へては上は六思法を亦
 へ水野の漢書とてかへて中二はと國中へとてし
 けし下漢に如くし傳へては

○同年國入りし夜中尼所四果上人とてら本國程と印
 中浪人河上ともて河川四傳長川中へ布しとて大解也
 方へて後所舞有しとて建れ罪文とてあめた

本國程と印

けしとて東狀とて下とて今とて一は直勝とて家人とて集員
 へ所方とてい入以傳并薩長とて三藩とて護傳とて有也
 へ國とて難國とて好津とてかて或は非理とて後成とて食うとて外
 不傳好由難畫とて上とて傳へてはとてとて治福害とてせし
 傳へてはとて空馬とて方とて也

戊戌八月

けしとの記録とて河川とて上移南とてとて流とて者とて里江有
 少種とて白鳥とて會とて馬とて後とて名とて紐とて名とてとて中とて大とて
 へんあや中とて名とて伝とてはとて所とて事とてとて物とて名とて
 傳へてはとて一とてとて名とて物とて名とてとて事

○同年よりとてら此河川とて神松系とて東とて河川中とて有とてら
 青鳥とて陰とて身とて名とて建れとて罪狀とて書附とてとてけしとて

九條殿侍を美字に大倉と改め申付候に
向ふ所候より付大倉御侍と改め申付候に
付仁と新指お召候事建礼泉文と書付候

仁と改め申付候

け者略田を賜ふ事家とて申付候に
仁と改め申付候事建礼泉文と書付候

成土のりり

○同より物、乳野向の御事上人と申付候に
後陣の報し方と申付候に
長羽織の御事上人と申付候に
是々腕の細川と申付候に

高き道 揮毫

同明の文

大と云ふ事申付候に
傳の 別年申付候に
の御事上人と申付候に
外 賜ふ 利是と申付候に
可勢の御事上人と申付候に
口人 在御に到り候に
けと申付候に
高き道と申付候に

高き道と申付候

高き道と申付候

高き道と申付候

高き道と申付候

大と云ふ事申付候に

○十月廿二日條事梅本武人今之所建礼

相國寺門名所

平野の事

銘

廿二日条事

此条事年重事四方園東法事也此條事如之以上長所
為西入河南側捕の重務と申す宿之指之此所
之令條事受了九の宮途或之る事也此條事如之
若くは此條事傷之を指之る事也此條事如之
之の一日事也

長書

此条事向の上は事と無く申刻、此條事如之以上
事

○十月勅使馬事、宮上り之有別記

○園事勅事、此条事如之以上

今般

勅使被

御南信有一招刑部卿再出後見

御前若中將以事從裁職事之儀大尉清

清被申上兩人り、登城以事二重革三儀正力

相勅使音

勅使信京言上之候、此条事如之以上

事去深忌懼、由自今事奉遵

勅意心分誠精、令之以上、此条事如之以上

安堵後孫處置有之可奉安

宸襟刑部師姑國光周旋之肯之止後四

事之流弊昂昂之名連之新政雖行以亦在

有之肯猶得迴處名候得去亦係復

正儀朝命之尊山宗之志情之奮而記之極佳同

暫御柄係處置方御老案可被為

在修事

別以之級為心得一目之為見福不候

○戊十月再度勅使關東上下向宮方一官

攘夷之儀先年之處慮到方今更

御宴動不被為在處於柳營進之宴草

新政之施行處旨連飲導奉相成後條

不斜處感彼為在候然處天下之食

攘夷一定每之而者人心一致之難到且國亂之

程茂如何被惱處慮候同於柳營弥

攘夷之定之有之連諸大名占布告有之之祥

社思召候充策略之次第者武將之職掌

候間早速聽尺眾議候而至當之公論亦亦在之

醜夷拒絶之期限ヲモ收議 奉聞之精御
沙汰候事

右勅使ト轉法輪三條中納言殿
十日未り御出来

御製

うらぐやむものむらむら子座衣成りしや阿子
夜くとまのめふん

右勅使言事申納言送別御製ト上中申ス

八月廿四日沙汰候事出

溜り泣候

松平他老守屋

所司

牧野備前守

若手

平山丹波守

侍側

江部伊豆守

侍

松平出羽守

種部

石名田膳守

大目付

松平備後守

侍

松浦信之守

沙汰

福田守

門

田村守

和國守

井上信俊守

沙汰

駒井山城守

石

常田守

以上

